

2021年度



# さくらんぼ園だより 6・7月号

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会

舞鶴子ども発達支援施設「さくらんぼ園」(TEL64-5798・FAX62-9171)

## 「子どもというのは、こういうもの」と考えて…

水を含んで一層美しい紫陽花を見ては、その美しさに心がリフレッシュされ、コロナ禍でありながらも心がいやされます。保護者の皆様も少しの時間を作り花でも見てほっこりしていただければと思います。

紫陽花で思い出されるのが城南中学校の校門を入れてすぐ右側に紫陽花の花と一緒にある「紫陽花の碑」です。その碑文には次のようなことが書かれています。

とどけ 永遠の思い 紫陽花の花と共に

紫陽花の花が咲いたら、僕らのことを思い出してください。

「城南中の制服を着て学校へ行く…」そんな、なんでもないことが僕らの夢でした

病室の窓から見える紫陽花に励まされ、僕らは、精一杯病氣とたたかった

でも、その夢はかなわなかった

今、僕らの心は紫陽花の花となってここにいます

人の手から手へと運ばれ育てられ、こんなに大きくなりました

お弁当を食べている君たちが見えます

試合に負けて泣いている君も、グラウンドで大なわをとんでいる君も、

いっしょうけんめい単語を覚えている君も

「生きている」って、なんて素晴らしいことなんだろう

早くして逝った少年と少女に思いをはせ、生徒らが、夢と希望をはぐくみ

いのちを輝かせることを願いこれを刻む



平成二十年三月 舞鶴市立城南中学校 同窓会

これは、急性骨髄性白血病を発病し、昔の国立舞鶴病院に入院していた子どもたちの願いの碑です。(詳しくは、城南中のHPをご覧ください。)

さて、梅雨の時は、子どもたちはどうしても雨が續くと外で遊ぶことができず、ストレスを解消できずにイライラして家の中で暴れたり、きょうだいげんかをしがちです。親のにとっては困ったことですが、人に迷惑をかけるほどではないことが多いと思います。子どもは、元来、自己中心的で、失敗ばかりして、言うことを聞かないものです。①自己中心なのは、「自分を大切にする」こと②失敗によって子どもは学んでいる③言うことを聞かないのは、自我の芽生えとポジティブに受け止め、大声を出して感情をむき出しにしてでも叱らなければならないことは、自分を傷つけることと、他人を傷つけること、この2つしかないと思います。「子どもというのは、こういうもの」「今はわからなくても、そのうちできるようになるだろう」と考えて一度叱ったら、あとはちょっと放っておくというのもいいのでは…と思います。

園長 櫻井 秀之